

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 横浜市立浦島丘中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

- 期 日：平成30年5月23日（水）
- ク ラ ス：2年2組（36名）、2年5組（36名）
- オリンピアン：高橋 成美 先生（スケート・フィギュアスケート）



■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介をした後、次にオリンピックバリュー（エクセレンスはベストを尽くすこと、フレンドシップは仲間と協力すること、リスペクトはルールを守ること、先生や仲間を尊敬すること）を説明し、運動・座学の時間はこの3つのオリンピックバリューを約束事として意識しながら取り組んでいこうと伝える。

2. 準備体操



3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを実施。フィギュアスケートに見立てて1回目（ショート）は90秒間、2回目（フリー）は120秒間で実施し、跳べた回数合計を競う。引っ掛かっても続きから数えることとし、引っ掛かった回数が0回で+10回、1～5回で+5回、6～10回で+2回、10回以上は±0回として1回目、2回目終了時それに応じて加減していくことをルールとした。皆、縄の回り方や跳び方等それぞれ工夫していたのが良かったと生徒を称えた。

4. まとめ



・3つのオリンピックバリューについて、それぞれのチームで話し合い（青黄チームはエクセレンス、緑黒チームはフレンドシップ、赤白チームはリスペクト）、運動の時間で何ができたか考えよう伝え、1分間考える時間を与えた。エクセレンスについては「チームワークを大切にベストを尽くした」「跳ぶことにベストを尽くした」、フレンドシップは「皆で作戦を立て、励まし合い協力した」「縄を皆でほどき、声を掛け合い励ました」、エクセレンスは「他チームの結果も喜んだ」「正々堂々できた」等の意見が挙がった。運動の時間で行ったこと、経験したことを忘れないように座学の授業を受けてほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・自己紹介後、座学の時間のスケジュールを確認。配布している用紙の空欄に高橋先生がこれから話すことを書いて覚えてほしいと伝える。オリンピックの目的が「オリンピックとはスポーツを通じた人間育成と世界平和を究極の目的とした世界的なスポーツの祭典」であるということ、クーベルタンが提唱した「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍等さまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること」がオリピズム（オリンピックの精神）であること、オリンピックシンボルの5つの輪、5つの配色はそれぞれ五大大陸と国旗の色を表していることを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：クラスをより良くするにはどうすればいいか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)
 エクセレンス：「提出物を出す」「何事にも全力で取り組む」「エネルギーな先生に負けず何事にも全力で取り組む」「どの授業にもベストを尽くす」等
 フレンドシップ：「皆で協力し合うために躊躇せず問題を指摘し合う」「相手の悪口ではなく良いところを積極的に言う」「皆で注意し合う、教え合う」等
 リスペクト：「周りの人への感謝の気持ち」「笑顔で大きな声で挨拶をする」「温かい気持ちを持って人に接する」「発表した後に拍手」等

4. まとめ



・生徒一人一人が素直で誠実に接しており、それらはとても素晴らしいことだと生徒を称え、これからも全力で物事に対して取り組んでほしいと伝える。オリンピックバリューは皆の身近にもあり、実践することでより良いクラスになる。皆にも選手、ボランティア、観客、コーチ等さまざまな形でオリンピックに関わる機会があるので、本日の授業で感じることができたオリピズム、オリンピックバリューを忘れずに自身がどのようにオリンピックに参加できるのかを考えてほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日：平成30年5月24日（木）
- ク ラ ス：2年1組（37名）、2年4組（37名）
- オリンピアン：村上 睦子 先生（バスケットボール）



授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・自己紹介をした後、今日の授業で伝えたいこととしてオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）を紹介し、手書きの用紙を見せながら3つの約束事（①ルールを守りどんなことも全力で取り組む、②友達と声を掛け合い協力し、思いやりを持って行動する、③皆でアイデアを出し合ってチームで工夫し、それに対して挑戦することを心掛ける）を伝える。

3. 主運動



・5班対抗シュート競争。①前の2人がボールを持って1人ずつスタートし、1人1回シュートする。②スタート地点からドリブルで好きなマーカーのところまで行き、そこからシュート。入れば1得点獲得となり、ゴールの下に置かれているマーカーを取って再び班の列に戻り、ボールは列の2番目の人に手渡す。シュートが入らなかった場合もドリブルで戻り、2番目の人にボールを手渡す。③ピンク色のマーカー（各4ヶ所）からシュートを決めれば2得点獲得、同マーカーを取って班の列に戻り、ボールは列の2番目の人に手渡す。④制限時間内に各班で何得点獲得できるかを競う。

・まとめ



・準備体操、主運動を通じて、挑戦することができたか、どんな作戦を考えることができたか、作戦を実行することができたかを振り返り、それらの行動や考え方がオリンピックバリューに結びついている。結果は結果であり、1回目より良くしようと実行すること、結果に至るまでの経過が大切であり、チャレンジしたことを称えたい。次の座学の時間ではオリンピックバリューについて詳しく説明するので、運動の時間で感じたことを忘れずに教室に戻るよう伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・オリンピックのイメージについて質問し、生徒から「トップレベルの選手が競い合う」「チームで協力して戦う」等の意見が挙がる。村上先生が出場したアトランタ大会は近代オリンピック開催100周年記念大会だった。近代オリンピックとはクーベルタンの思想（スポーツを通して心身を向上させ、平和でよりよい世界の実現に貢献すること）を基に開催され、その考え方がオリंपィズムであること。続いて、オリंपィックシンボル（5つの輪の数が五大大陸を表し、輪の5色と地の白色を合わせた6色で世界中の国旗を描くことができる等）の意味を説明。

2. オリंपィックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：運動の時間を振り返ってオリंपィックバリューについて考えてみよう
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)
 エクセレンス：「2ポイントシュートにたくさん挑戦した」「どうすればより点が入るか意見を出し合えた」「最後まで諦めなかった」「どの授業でもベストを尽くす」等
 フレンドシップ：「どこにパスを出したら取りやすいか考えた」「パスやシュートの時に声掛けができた」「ドンマイ、ナイスシュート、と声を掛け合えた」等
 リスペクト：「フェアプレーでチャレンジできた」「チームの仲間と信頼し合って試合に臨むことができた」「仲間が点を決めた時は声を掛け合った」等

4. まとめ



・オリंपィックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にも根付いている。3年生になるとオリंपィックについて学ぶ授業があるので、今日、話したことを覚えておいてほしい。2020年の東京大会は一生に一度の貴重な経験になる。他人事だと思わずに、様々な形で関わってほしい。どんな形で関わることができるかを考えることで、自身の人生が変わってくるので、より高みを目指して挑戦を続けてほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日：平成30年5月24日（木）
- ク ラ ス：2年3組（36名）
- オリンピアン：夏見 円 先生（スキー・クロスカントリー）



授業のながれ：運動の時間（5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・自己紹介の後、クロスカントリースキーを知っているか、実際に体験したことがあるかを問い掛け、知っている生徒はいたが、体験したことのある生徒はいなかったため、雪上のマラソンとも呼ばれていることを説明し、運動の授業ではスキーを滑る感覚を体感してもらいたい。今日の授業を通じて、オリンピックバリュー（エクセレンス・フレンドシップ・リスペクト）を理解し、皆の日常生活の中にも存在することを体感してほしい。次にオリンピックバリューを絡めて3つの約束事（①全力で取り組むこと、②クラス全員で協力すること、③ルールを守ること）を頭に入れ運動の時間を過ごしていこうと伝える。

3. 主運動



・5班対抗クロスカントリースキー。①片脚に靴の上から袋を装着しゴムバンドで縛る。②袋を装着している脚で雑巾に乗って滑る。③雑巾が外れた場合は、その場に戻り再スタートする。④コーンの右側を通り、折り返し雑巾をバトンとして次の人に交代。⑤各班に袋を2枚配布し、2組が準備、3組目以降の1組目の袋を受け取り準備しておき、2組目からバトンを受けてスタートする。⑥1回目は1人、2回目は2人組で実施。⑦2人組の時は左右どちらの脚を滑らせても可とすることをルールとした。

4. まとめ



・授業の振り返りとして、冒頭に約束した3つ（全力で取り組むこと、クラス全員で協力してやること、ルールを守ること）を守ることができたかを確認し、運動の時間に感じたことを振り返りながら教室へ戻ることを伝え、座学ではオリンピックバリューについて詳しく説明していくことを予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・オリンピックシンボル（色、輪の数）について、輪が繋がっていることは平和を象徴しており、五大洲（世界中）の人がスポーツを通して競い合うことで平和を目指していることを表している。次に近代オリンピックの歴史やクーベルタンについても触れ、オリンピックの3つの価値をオリンピックバリューと言い、具体的にエクセレンス＝「卓越」、フレンドシップ＝「友情」、リスペクト＝「敬意/尊敬」であると伝えて、自身の経験を踏まえてオリンピックバリューについて考えていきたいと授業の目的を確認。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：運動の時間を振り返りオリンピックバリューについて考えてみよう
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)
 エクセレンス：「最後までやり遂げる」「事前に作戦を立てたり準備をした」「何事にも全力で取り組む」等
 フレンドシップ：「相手のことを考え歩幅を合わせた」「協調性を高めた」「皆で楽しむ」等
 リスペクト：「応援等声掛けをした」「思いやりを持って接する」等

4. まとめ



・何かを全力で続けている人には協力したいと思う人が集まってくる。自身の限界をつらさず、今持っている目標よりさらに背伸びして上を目指して、大きな夢に向かって成長してほしい。オリンピック教室で授業を受けたということは既に皆はオリンピックに関わっているということ、2020年に東京大会が開催されるので、応援する、観戦する、観戦に来た外国人の案内をする等、様々な関わり方がある。是非、このオリンピック教室で学んだ経験を今後につなげてほしいと伝え、授業終了。